

前回の人材開発分科会（令和 2 年 12 月 18 日）における「第 11 次職業能力開発基本計画（たたき台）」に係る主なご指摘事項

- 自律的・主体的なキャリア形成が重要である一方で、時代のニーズに即したスキルを把握できるのは企業や産業界であり、個人が把握するのは難しいため、労働者の能力開発を個人任せにしないことが重要。
- 労働者の主体的なキャリア形成、成長産業の移行のためにリカレント教育の推進が重要。
- これまで主体的に自らのキャリアを形成する機会がなかった方については、いきなり自律的なキャリア形成を行うのは難しいためそうした方への支援が重要。
- ジョブ・カードは普及に向けた目標を達成できておらず、今一度ジョブ・カードの活用検証を行うべきではないか。
- IT 人材の育成に向けては、求められる能力やその育成方法を具体的に示すべき。
- ホワイトカラー職種の訓練を充実する必要がある、その際訓練機関のみならず民間企業の活用も促進するべき。
- 中央職業能力開発協会はキャリア形成支援や技能振興などへの役割を果たしており、これまでの実績も踏まえその役割を示すべき。
- 認定職業訓練は、技能検定や職業訓練指導員免許を取得する際等にも考慮されるものであり重要。
- 技能グランプリは技能尊重気運の醸成に資する重要なものだが、その周知が課題。
- 外国人への支援についてその具体的な内容を示すべき。今後のキャリア形成を支援していくことも重要。
- 特別な支援が必要な方に対しては、特に新型コロナウイルス感染症への影響にも配慮することが必要。